

1) 歯周治療におけるプラークコントロールの重要性について

佐藤 亜紀

プラークコントロールという言葉はCMなどでもよく使われ、世間にも広く知られるようになってきました。一般的には“歯みがき”や“ブラッシング”のことを言うのですが、歯周治療では少し違った意味があります。

プラークコントロールとは、単なるブラッシングではなく自身の口腔内を自分で正しく管理し、歯周病の進行を抑制する行為です。

歯周治療は“清掃器具の細菌の増殖部位への到達を高める治療”ですから、このプラークコントロールを確立することが歯周治療では一番大切です。

しかし、実際には患者さんが必死に頑張っても清掃器具が届かない場所があります。歯周病の進行で深くなってしまったポケットや乱杭歯などの歯並びの悪い所、清掃器具が入りにくいかぶせ物などです。深いポケットは手術で、歯並びは矯正で、悪いかぶせ物は交換します。歯周治療を進めてゆくには、プラークコントロールを中心に、これらを含めた治療が必要です。今回は実際の臨床例から患者さんのプラークコントロールの向上させるためのポイントを発表します。

2) インプラント上部補綴作成の技工手順

愛尾 健一

インプラント治療で作成する補綴物は、患者さんの清掃のしやすさを考えたものでなければなりません。多くの歯科技工士がインプラントや天然歯のかぶせ物(補綴物)を作成していますが、歯科では問題なく機能している物でも歯周病科では問題点のある補綴物も見られます。特にかぶせ物の素材や形態もインプラント科や歯周病科では重要です。インプラント上部の補綴物は歯周病によってダメージを受けた天然歯と同じような考え方で力の分散を考えなければなりません。また患者さんの清掃性がやりやすい歯頸部形態、汚れの付きにくい素材も有効です。

今回、実際の技工手順に沿ってインプラント上部補綴物の作成での注意点を発表します。

3) 患者さんへの各科診療科の説明と注意点

山本 千尋

歯科分野には、一般歯科・歯周病科・インプラント科・矯正歯科・口腔外科など多くの診療科があります。しかし、患者さんはこれらについて詳しく知りません。どのような治療をするのか、また自分がどの分野で治療してもらったらいいのかもわかりません。

私たちはそのような患者さんに各科の治療法を分かりやすく説明できなければなりません。今回は代表的な歯周病科・矯正科・インプラント治療科について説明します。

歯科はむし歯を詰めたり、かぶせ物を入れたりすることがよく知られていますが、これら歯科治療は患者さんは通院さえすれば先生が歯を治してくれます。しかし歯周病科では患者さん自身でやらないといけないことがあります。それは口腔内の清掃です。

口の中を常に高い清掃状態に維持しておかないと治りません。半分は先生、後の半分は患者さんが責任を持って行わないと治らないところが歯周病科が歯科治療と違うと

ころです。

当センターは、歯周病の専門医院ですので、歯周治療の患者さんは全体の半分以上を占めています。忙しくて通院できない患者さんや自分で口腔内の管理が苦手な患者さんは、歯周病科ではなかなか治療が進みません。そのような患者さんにもよく説明し、口腔清掃の必要性をよく理解してもらって治療を進めてゆくことが必要です。

矯正科は患者さんにも、よく知られた名前の科ではありますが、治療の期間や費用、またどんな装置を付けるのかは患者さんは分かりません。当院の矯正科では、一般的に成人の患者さんで全顎の矯正治療は約2年～3年、費用は約60万、もちろん個々の患者さんによって変わります。

また、矯正は歯並びの見た目だけでなく、歯周病の治療として行うことが非常に多く、何歳になっても矯正の歯牙移動は可能であることも患者さんには説明してあげる必要があります。